

今後の休憩岸壁の整備について

漁港ワーキンググループ

1 休憩岸壁の問題点と議論

(1) 経緯

境漁港においては水揚げ岸壁の整備が概成したが、休憩岸壁については慢性的な係船場所の不足や、係船ルールが明文化されていないため、大漁、荒天、盆正月等で漁船が集中入港した際の係船調整の混乱が問題となっていた。



漁船で混雑した休憩岸壁

(2) 係船ルールの策定

この問題について第3回漁港WG会議（令和6年3月6日）で議論。ソフト面では大まかな係船ルール（別紙1）が定められ、水産事務所から関係者に通知したところ。ハード面では様々な大きさの漁船に対応するために休憩岸壁を増深することや、係船をより容易にするための係船柱の増設・形状の改良を行うことの必要性が委員から提起された。

(3) 休憩岸壁の増深や係船柱改良等に関する漁港WGの意見

第3回WG会議で提起された施設面に関する意見について、WG委員全体の考えを把握するためのアンケート調査を令和6年4月に実施した（別紙2）。その結果、漁港WGの委員の多くが休憩岸壁のうち4.5m岸壁の増深や休憩岸壁全体の係船柱の増設や改良の必要性を感じているとの結果となった。

このことについて、第4回漁港WG会議（令和6年6月17日）において議論され、休憩岸壁の増深及び係船柱等の増設や改良が必要であることが漁港WGの意見として採択された。

2 休憩岸壁の整備について（協議）

境港地区の水産振興を目的として、これまでの市場整備により水揚げ機能は高まった。しかし、漁船の集中があった際に休憩岸壁の係船調整に対する懸念が残る状況である。将来、漁船の大型化や水揚げの集中があった時に係船調整が理由で水揚げが制限されることになっては、境港の水産振興上大きな損失となると考えられる。

以上のことから、漁港WGとして、将来を見据え今のうちに休憩岸壁の機能を最大限に活かすために増深を行うとともに、係船柱等の増設や改良が必要ということをさかいみなと漁港・市場活性化協議会に提言する。

さかいみなと漁港・市場活性化ビジョン P.21 将来の構想（一部抜粋）

③周辺環境の整備

ア 係留岸壁の充実 <H25年度～>

係留岸壁の不足に対応するため、漁業者及び市場関係者等による岸壁利用調整協議会（仮称）を組織し、係留岸壁の円滑利用を図るためのルールづくりを行うとともに、官公庁船やポートサービス船（給油船等）の係留場所、港湾区域の活用も含め、係留岸壁の確保について検討する。

第202300323508号
令和6年3月28日

山陰旋網漁業協同組合
鳥取県かにかご漁業組合
島根県かにかご漁業組合
鳥取県小型イカ釣り漁業協会
島根県まき網漁業協会
鳥取県漁業協同組合境港支所
鳥取県漁業協同組合網代港支所
田後漁業協同組合
漁業協同組合 J F しまね境港支所
境港魚市場株式会社
株式会社ウミライ
ダイワ石油株式会社境港支店
境港水産物市場管理株式会社

代表者 様

鳥取県境港水産事務所長
(公 印 省 略)

境漁港休憩岸壁への係船について (通知)

日ごろより、本県水産業の推進について御尽力いただき厚く御礼を申し上げます。さて、境漁港休憩岸壁は全漁船が1隻ずつ係船できるほど十分な延長を有さないため、各船協力して利用いただいているところです。1隻でも多く漁船が係船できるよう、令和6年3月6日に開催したさかいみなと漁港・市場活性化協議会 漁港ワーキンググループ会議において係船ルールに関して下記のとおり取り決めましたので、関係者に御周知いただきますようお願いいたします。また、休憩岸壁の増深や係船柱の追加等の補修について皆様のご要望を聞き取りながら対応してまいりますので合わせてご協力くださいますようお願いいたします。

記

係船ルール

- 1 荷受は入手した各漁船の入港状況を速やかに境港水産物市場管理株式会社に報告する
- 2 境港水産物市場管理株式会社の許可なしに水揚岸壁の休憩利用は不可とする
- 3 休憩岸壁で係船する場合は船同士の間隔をつめて係船する
- 4 僚船等は重ねて係船し、旋網の伝馬船は本船に収納する
- 5 船員は監視員の係船依頼に対して紳士的な対応をする
- 6 代船建造等に伴い長期間休憩岸壁に係留する場合は事前に境港水産物市場管理株式会社に連絡する
- 7 燃油船の休憩岸壁の係船は漁船利用を優先とする

令和 6 年度境漁港の休憩岸壁に関するアンケート結果

アンケート概要

実施期間 令和 6 年 4 月 8 日（月） - 4 月 12 日（金）

対象者： さかいみなと漁港・市場活性化協議会 漁港WG委員 8 名

漁業種類 まき網 4（大中型 3、中型 1）、沖合底曳網 2、小型いかつり 1、ベニズワイガニかにかご 1

1. 内港の-4.5m岸壁を増深することについて、必要だと思いますか？

	全体	必要	不要	その他
実数	8	7	0	1
構成比	100%	88%	0%	13%

1. 自由記述意見

・境港には19t型（FRP）のイカ釣り、中型まき網船から大型（300t～500t）クラスの大型まき網船の付属船まで多種多様な船が係船するため、どのような船でも余裕を持って係船できるスペースが必要と思われる。
・時化の時などに、(-4.5m岸壁へ) 停泊するのを運搬船、底曳船ともに避けたがります。
・水深6mは欲しい。大型船も制限なく係船できるようにしてほしい。
・以前と比べて船舶が大型化したため。
・水深が浅いと砂を巻き上げ、エンジンの故障を招くため。

2. 休憩岸壁の係船柱の増設及び形状について教えてください。

(1) 係船柱の増設は必要だと思いますか？

	全体	必要	不要	その他
実数	8	7	0	1
構成比	100%	87.5%	0.0%	12.5%

2. (1) 自由記述

無駄な係船スペースを無くし、詰めて係船するために必要。
船の方からは、（係船柱の）間隔が広いと聞いています。
ピットが現状のままだと係船できるスペースに無駄が出来る。増設で多くの船が係船できるようにしてほしい。
増設することで効率よく係船できるようになると思う。
船舶と船舶の間隔をなくするためには当然必要である。

(2) 係船柱の形状を直柱状からL字状に変更することは必要だと思いますか？

	全体	必要	不要	その他
実数	8	6	1	1
構成比	100%	75.0%	12.5%	12.5%

2. (2) 自由記述

・潮の干満の差があり、大型船の高い位置からのロープ取りには必要。
・何回か、入出港船の波でロープが外れたことがありました。
・モヤイが取りにくいので改善してほしい。（直柱状だと）係船ロープがはずれる場合がある。丸環では強度不足。
・L字状にした方が簡単にモヤイがとれる。直柱状では船が大きい場合ははずれるので注意が必要である。
・直柱でもロープの引っ掛かりがあれば問題はない。